

---

## 編集後記

---

お彼岸まで熱中症で死者が出るあの暑さで、いくつもの台風が世界各地に大被害をもたらし、2カ月もしない間のいきなりの万里の長城での凍死事故のニュース、地球大丈夫かといらぬ心配をし恐れを抱いているこの頃です。今まさにアメリカの大統領選の熱き戦いを目の当たりにし、比べる日本のスピード感、緊張感のない、どちらを目指しているかさえわからない政治にイライラしているのは私だけでしょうか？

3年前の編集後記で広報委員としておおいに反省したはずでしたのに、今でも変わらずお荷物状態で、透析医会雑誌の編集者に名を連ね、締め切りを過ぎてしまったこの原稿を焦って書いているところです。感謝は編集委員に回ってくる校正の原稿（役を果たしているのか心配になるぐらい校正するところがない校正原稿）を送ってくださる“すご技”のスタッフの存在です。それでも当たり前ですが、隅々まで原稿に目を通すわけですが、私自身、実態調査や臨床研究、研修セミナーや講演原稿から最新の知識を得、今および近未来の医療経済・医療制度の問題点や方向性を読み取り、益々多様化、複雑化する透析医療に対処する方法を考えうる情報をいっぱいいただいています。全部目を通さなければ損をする（?）、もったいないと思っていただけていると自負していますので、この医会雑誌を少しでも多くの方々にお読みいただきたいと願っています。もう少し多くの会員読者からの反応が見えるコーナーがあればおもしろいのではないかとも思っています。ツイッターよろしく、投稿原稿で「透析医のひとりごと」などに大いにつぶやいていただいても……。

時代はもう“みんな一緒なら安心”の時代でなく、個性の時代。個性豊かな、患者さんに誇れる Only one の施設を目指して生き残る時代なのかもしれません。患者さんのニーズにどうこたえるか、セカンドオピニオンが当たり前になる、透析医療も変革を必要とする時を迎えているのではないのでしょうか？

追：過去30年間で最も使用された曲がSMAPの「世界に一つだけの花」というニュースに、大のSMAPファンの坂井瑠実は喜んだのであります。

広報委員 坂井瑠実